

岩手県技術士会 部会活動報告

活動名	平成 21 年度 森林・水産部会 研修会	(CPD 番号 21-19)
主催	森林・水産部会	
日時	平成 22 年 3 月 13 日 (土) 15:00 ~ 16:30	
場所	岩手県盛岡市大沢河原 岩手労働福祉会館	
参加人数等	12 人	

活 動 内 容

講師 森林水産部会会員 成田武信 氏

- 1) 宮古市と合併前の川井村により平成 18 年度までに整備された「木の博物館」の基本目標は、「木と地域住民の暮らしや山村文化との関わり」、「農林業の振興と資源利活用の促進」、「都市住民が参加する森林保全や自然保護の重要性の啓発」等を円滑に進めるとされています。この目標を実現していくために、どのような仕組み作り、活動がなされているかを学び、意見交換により理解を深める目的で開催された。

川井村が発行した「かわい木の博物館がトブック」を資料として配付し、「かわい木の博物館」のビデオが作成されており上映された。

- 2) 「木の博物館」は、本州で 4 番目の 563 km² という広さを持つ村の面積の 94%を占める森をまるごと木の博物館に見立てて、各地域で特徴のある森を分館（サテライト）とし現在 16 分館が設置されている。普通の博物館とは違い、建物や施設はほとんど無く、現地に実在する典型的な森や生態系を分館にしている。森の分館への案内は、村が任命した 30 人の「木の博物館案内人」が務めている。見学コース等も設定されている。年間千人を超える人がグリーンツーリズムで訪れている。



- 3) 川井村と宮古市の合併を機に、博物館のあり方、広い年代層、広い地域からの来場者増加のために、誰でも親しめ、楽しめる博物館、子ども達を楽しめ、親子で楽しめる分館を目標に整備などが必要ではないか、などの意見交換がなされた。分館には、「治山の森」があり、平成 5 年度から治山工事により、裸地状態であった、風衝荒廃地を緑化した箇所である。「治山の森」を含め、実際にどのようなプログラムが行われているか体験したいとの意見がだされた。